

## 新しいマネーセンター「中東」を巡るマネーフローとその影響

三菱東京 UFJ 銀行 宿輪 純一

最近、国際金融・通貨分野で中国の存在感が増しているが、「中東」も米ドル(通貨制度)に影響力が有り、(中東経済情報は極めて取り難いが)そのマネーフローを調査し影響を検討した。

近年「原油価格(WTI)」は高騰し昨年 7 月には史上最高値(147.27 ドル/バレル：2000 年の 5 倍)を記録。この原油価格上昇で、中東産油国に更に資金がシフトし「新しいマネーセンター」化した。ここでは GCC(湾岸協力会議)のサウジアラビアやアラブ首長国連邦等の 6 力国を対象とする。GCC の経済的特徴は「原油」の産出量が多く、経常黒字額では GCC 合計で中国に次ぎ第 2 位で、「SWF」経由等でマネーフローが拡大、殆どの国の通貨制度が「米ドル固定相場制」で米ドルマネーフローの一部で米ドルの通貨価値を底支え。更に「経済通貨統合」を展望、「イスラム金融」も成長中、産業育成的な経済政策で高成長と将来のポテンシャルを保持、日本の原油輸入の殆どが GCC で経済・社会的にも関係が深い。原油産出量の世界における GCC のシェアは約 22%(中東約 30%)・埋蔵量で GCC のシェアは約 40%(中東約 61%)と大きい。

「原油価格」は基本的に「米ドル建」で代金を米ドルで受取る。原油輸入国が代金決済のため、同額の米ドル買い(需要)が発生。一方、GCC の経常黒字が増加し、米国の経常赤字に対する割合も上昇し 2008 年には約 54%に達した見込み。更に運用として「米国債」を購入し、GCC は経常収支の約 2 割買っていたが、最近の傾向は減少し SWF 経由で他通貨・投資対象、或いはイスラム金融に転換中。現在の SWF の米ドル投資比率は約 58%で、約 42%は他通貨で運用(流出)。またイスラム金融(債)での運用は米ドル建の資産では無くなることも意味する。世界の SWF の規模：約 3.8 兆ドルの内、GCC は約 1.3 兆ドルと約 34%。

収支面では、原油の輸出により世界中から GCC へ米ドルで入金された金額(累計)は 2000 ~ 07 年まで約 1.9 兆ドルで、経常収支(累計)は約 0.9 兆ドル。運用面では、GCC の SWF と外貨準備高の合計は約 1.5 兆ドルとなっている。(中国の外貨準備は約 2 兆ドル・第 2 位の日本の外貨準備は約 0.95 兆ドル)

単年(2007 年)でみると GCC 原油売上の約 88%が米国以外で代金として 3.9 千億ドルの米ドルが購入。運用面では約 42%が流出し、結果として約 7 割の 2.7 千億ドルが米ドルを購入し、それは米国の経常収支米国の経常赤字は約 7.4 千億ドルで約 37%に該当。(これは中国に続くレベル)

米国(米ドル)の経常収支・財政収支(国債)のファイナンスに悪影響があるのは、原油価格が約 40 ドル以下への下落による GCC の経常収支の悪化時、また資金運用においてイスラム金融(債)や国内投資の割合の増加による米ドル建比率の下落時等である。当該ケースには、まずは米ドル為替レート下落や、国債の下落による金利の上昇等の面で国際金融・通貨における懸念材料となる。

(本報告の内容は、あくまでも個人に属し、所属する組織の見解ではない)